

平成30年11月6日

国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所
山形県 環境エネルギー部 危機管理・くらし安心局 危機管理課

「蔵王山火山噴火を想定した対応訓練」の実施について

新庄河川事務所と山形県と宮城県では、蔵王山の噴火に備えて、迅速かつ適確な火山防災対策が図れるよう、関係機関とともに蔵王山火山噴火を想定した対応訓練を、災害図上(DIG)訓練^{*1}で実施します。

本訓練では蔵王山が水蒸気噴火した場合を想定して、土砂災害に対応する避難の行動や情報伝達等の訓練を災害図上(DIG)訓練で実施します。

1. 演習日時 平成30年11月12日(月)午後1時～午後4時30分
2. 実施場所 山形県庁2階「講堂」
3. 参加機関 陸上自衛隊、仙台管区气象台、山形地方气象台、宮城県、白石市、蔵王町、川崎町、七ヶ宿町、山形県、山形市、上山市、仙南地域広域行政事務組合消防本部、山形市消防本部、上山市消防本部、東北地方整備局、仙台河川国道事務所、新庄河川事務所
4. 参加者 約65人
5. 訓練内容 ○被害想定は、仙台管区气象台より、蔵王山に「火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)」が発表され、小規模な水蒸気噴火が発生したことへの対応、その後、冬季に火山活動が活発化したことに伴い「噴火警報(噴火警戒レベル4、避難準備)」が発表されたとの想定の下、土石流や融雪型火山泥流に対応した訓練を行います。
○各機関が避難計画や減災計画の内容を確認しながら、対応や行動を共有・理解出来る災害図上訓練(DIG)により、火山防災対応について確認を行います。

※ 当日の気象状況により、訓練を中止する場合があります。

※ 会場にはマスコミ関係者席及び一般傍聴席を用意しています。なお、一般の方で傍聴を希望される場合は事前に事務局までご連絡願います。会場の都合上、先着10名程度とさせていただきます。

※1 災害図上訓練DIG(Disaster Imagination Game)とは、参加者が地図にマーカーや付箋紙などを使って書き込みを行いながらイメージトレーニングする訓練です。

「災害(Disaster)」を「想像(Imagination)」しながら「訓練(Game)」する手法で動詞の dig には「掘り起こす、探求する、理解する」と言う意味もあることから、「防災意識を掘り起こす」「災害を理解する」という意味も込められている。

<発表記者先:新庄新聞放送記者会、山形県政記者クラブ>

【問い合わせ先】

<国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所>

山形県新庄市小田島町5-55 TEL:0233-22-0262(直通)

副所長(砂防) 齋藤 克浩(内線205)

調査課長 村岡 章(内線351)

<山形県 環境エネルギー部 危機管理・くらし安心局 危機管理課>

山形市松波二丁目8-1 TEL:023-630-2230(直通)

課長補佐(防災担当) 長岡 篤志

報道監 危機管理監 佐藤 仁喜弥

■スケジュール

13:00～13:05	開会・挨拶
13:05～13:20	訓練の進め方の確認
13:20～14:35	災害図上訓練DIG (場面①)
14:50～16:05	〃 (場面②)
16:05～16:25	反省会 (訓練後アンケート記入)
16:25～16:30	閉会・挨拶

■訓練方法 (*1災害図上訓練DIG)

災害図上訓練は、想定される場面毎に以下の3ステップを繰り返して実施する。検討する場面(状況付与)は、2場面とする

●ステップ1：状況付与

- ・進行者からパワーポイントや配布資料により DIG の対象とする火山活動の局面について状況の説明を行う。

●ステップ2：対応行動の検討(グループ内討議)

- ・付与状況に対する各機関の対応内容を付箋に書き出して行動記入シートに貼っていく。
- ・規制箇所や調査ルートなどは地図にマジックで書き込む。
- ・他機関への要請事項、確認事項は付箋に書き込み、リエゾン役を介して他機関に伝える。
(リエゾン役は、参加者または事務局から人員を配置)

●ステップ3：発表

- ・各場面毎に対応行動の概要と関係機関との連携事項・課題についてとりまとめ、グループの代表者が発表する。



参考写真：平成27年10月15日山形県庁において8機関が参加した
「蔵王山の噴火を想定した訓練」状況